

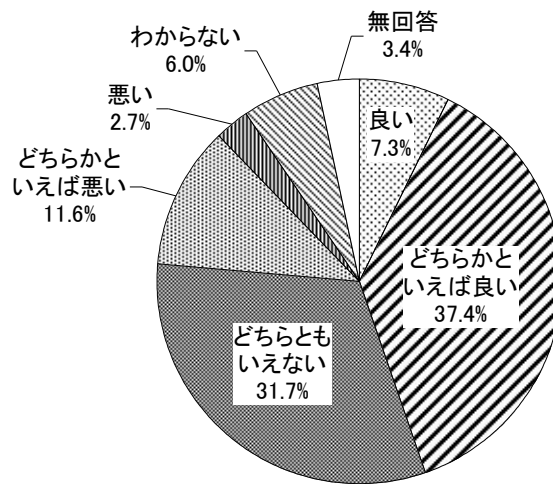
10 犯罪と治安対策について

(1) 県内の治安状況

問37 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

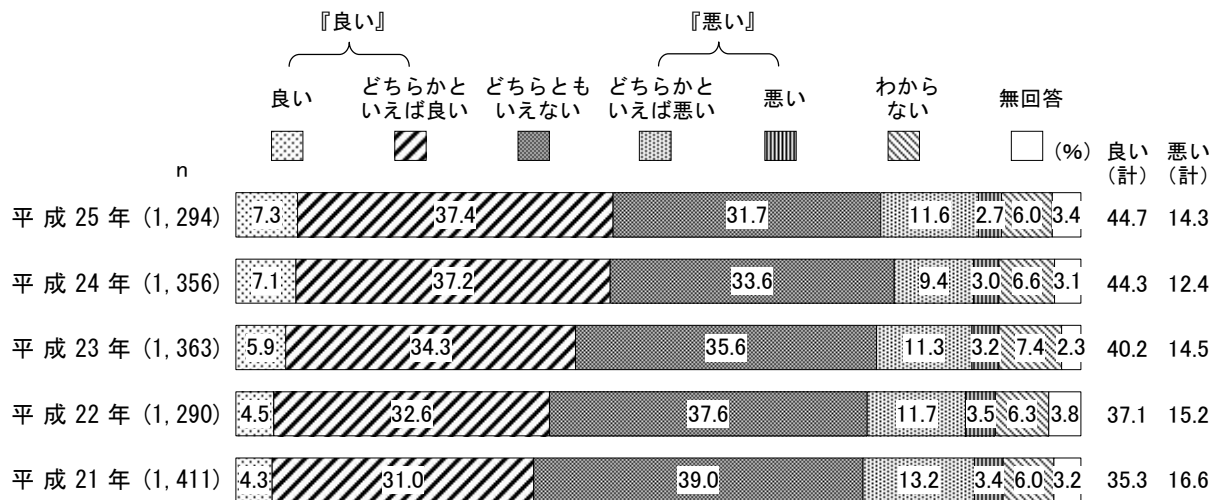
[n=1,294]

1	良い	7.3%	4	どちらかといえば悪い	11.6%
2	どちらかといえば良い	37.4%	5	悪い	2.7%
3	どちらともいえない	31.7%	6	わからない	6.0%
				(無回答)	3.4%



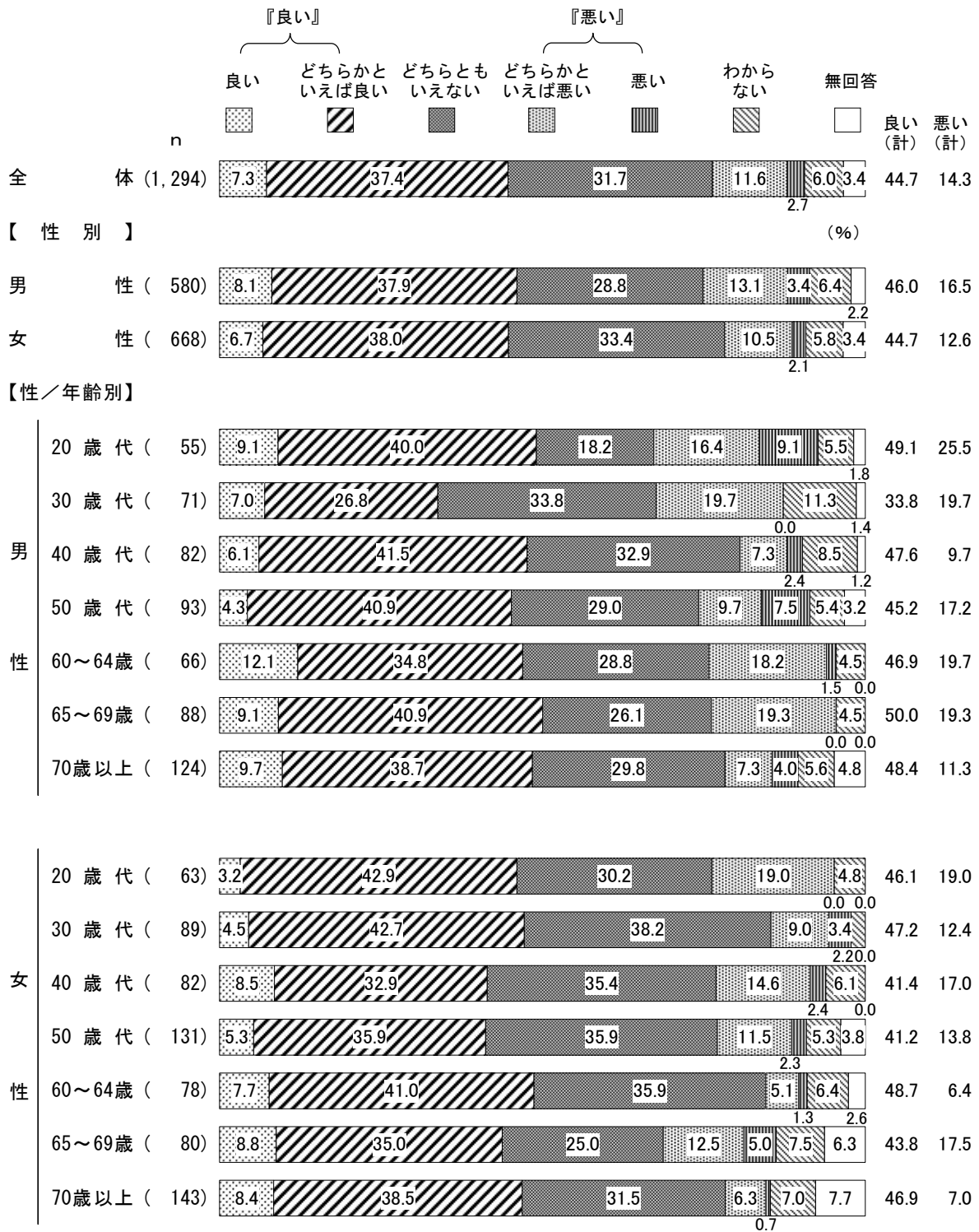
(n=1,294)

全体で見ると、「良い」(7.3%)と「どちらかといえば良い」(37.4%)の2つを合わせた『良い』(44.7%)が4割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば悪い」(11.6%)と「悪い」(2.7%)の2つを合わせた『悪い』(14.3%)は1割半ばとなっている。また、「どちらともいえない」(31.7%)は3割を超えている。



過去の調査結果と比較すると、前回(平成24年)と比べて大きな傾向の違いはみられない。

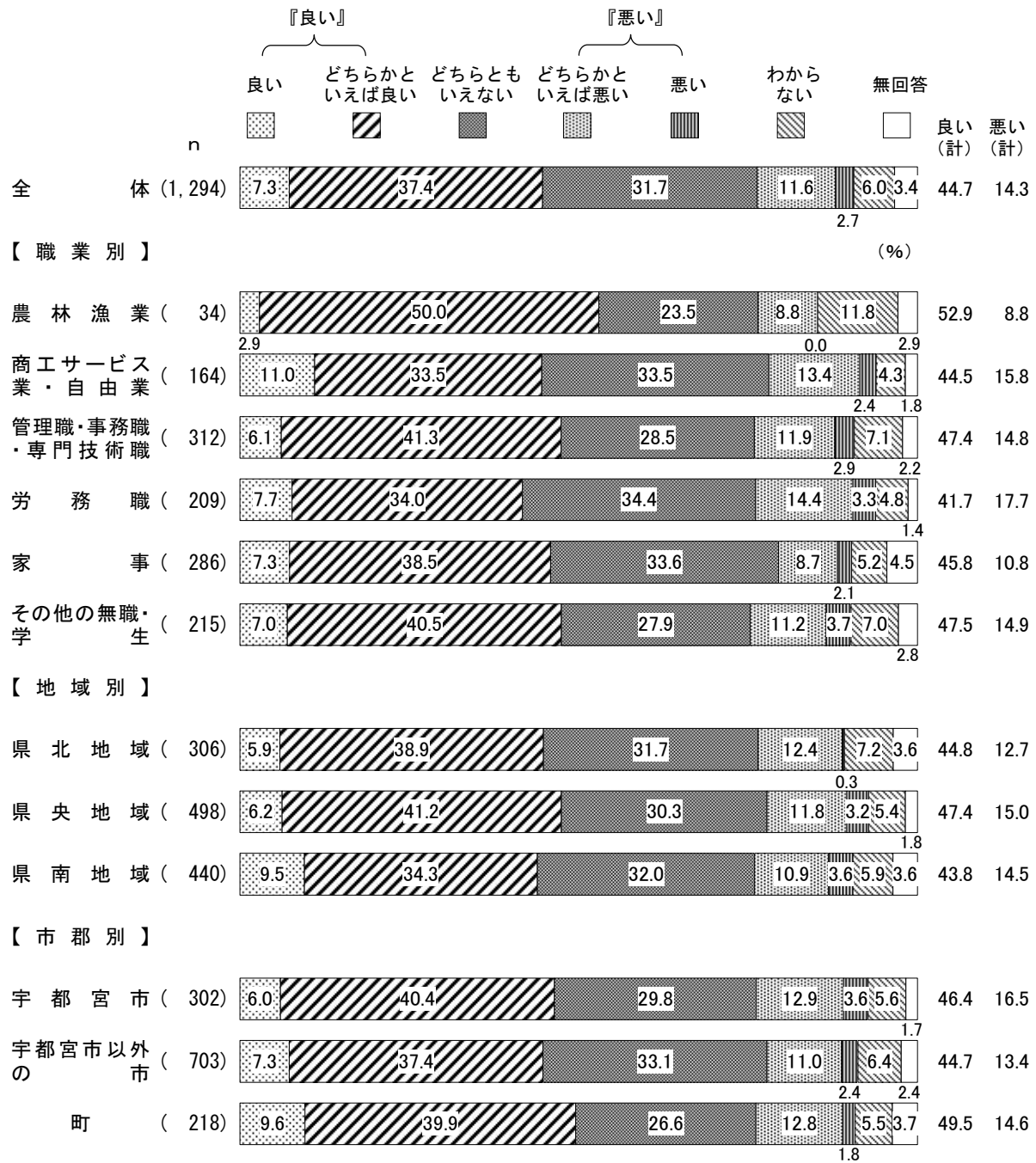
【性別・性／年齢別】



性別でみると、『悪い』では〈男性〉(16.5%)が〈女性〉(12.6%)より3.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『悪い』では〈男性20歳代〉が25.5%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]



職業別でみると、『良い』は〈農林漁業〉が52.9%と他の職業に比べて高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

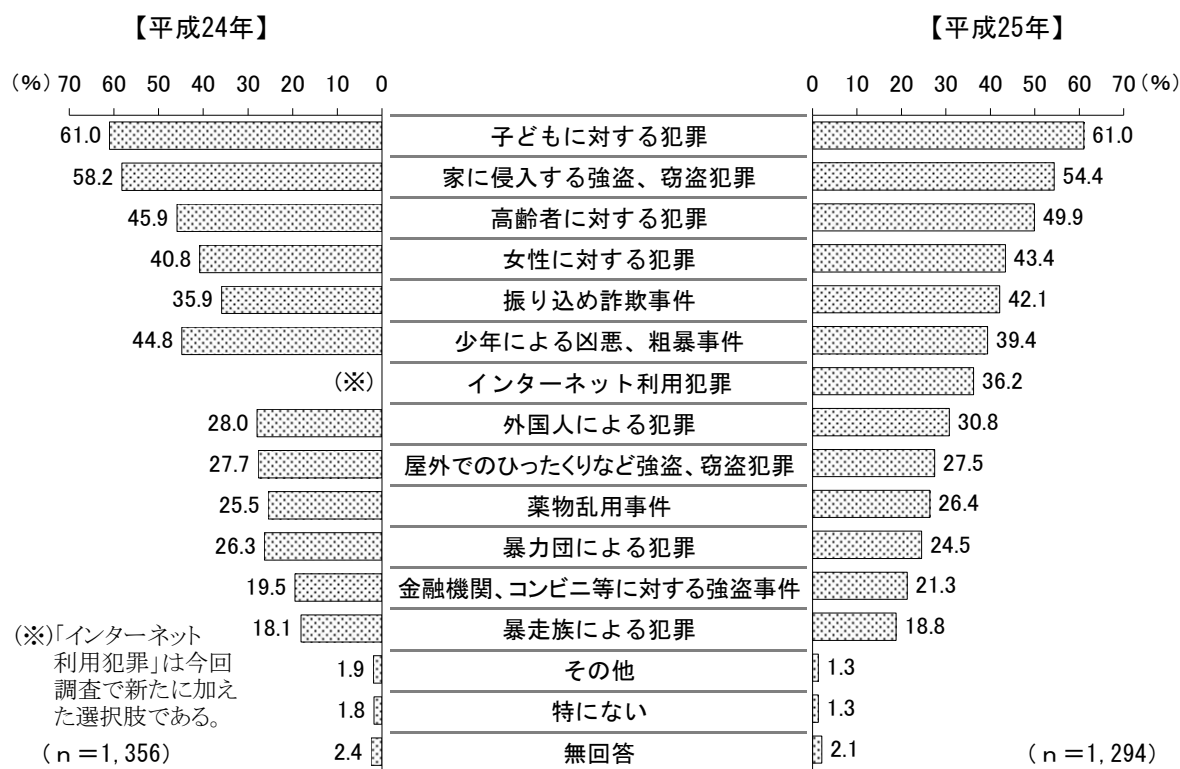
市郡別でみると、『良い』は〈町〉が49.5%となっており、〈宇都宮市〉や〈宇都宮市以外の市〉に比べて高くなっている。

(2) 不安を感じる犯罪

問38 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつか選んでください。

[n=1,294]

1	子どもに対する犯罪	61.0%	9	家に侵入する強盗、窃盗犯罪	54.4%
2	女性に対する犯罪	43.4	10	屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪	27.5
3	高齢者に対する犯罪	49.9	11	薬物乱用事件	26.4
4	金融機関、コンビニ等に対する強盗事件	21.3	12	振り込め詐欺事件	42.1
5	少年による凶悪、粗暴事件	39.4	13	インターネット利用犯罪	36.2
6	外国人による犯罪	30.8	14	その他	1.3
7	暴力団による犯罪	24.5	15	特にない	1.3
8	暴走族による犯罪	18.8		(無回答)	2.1

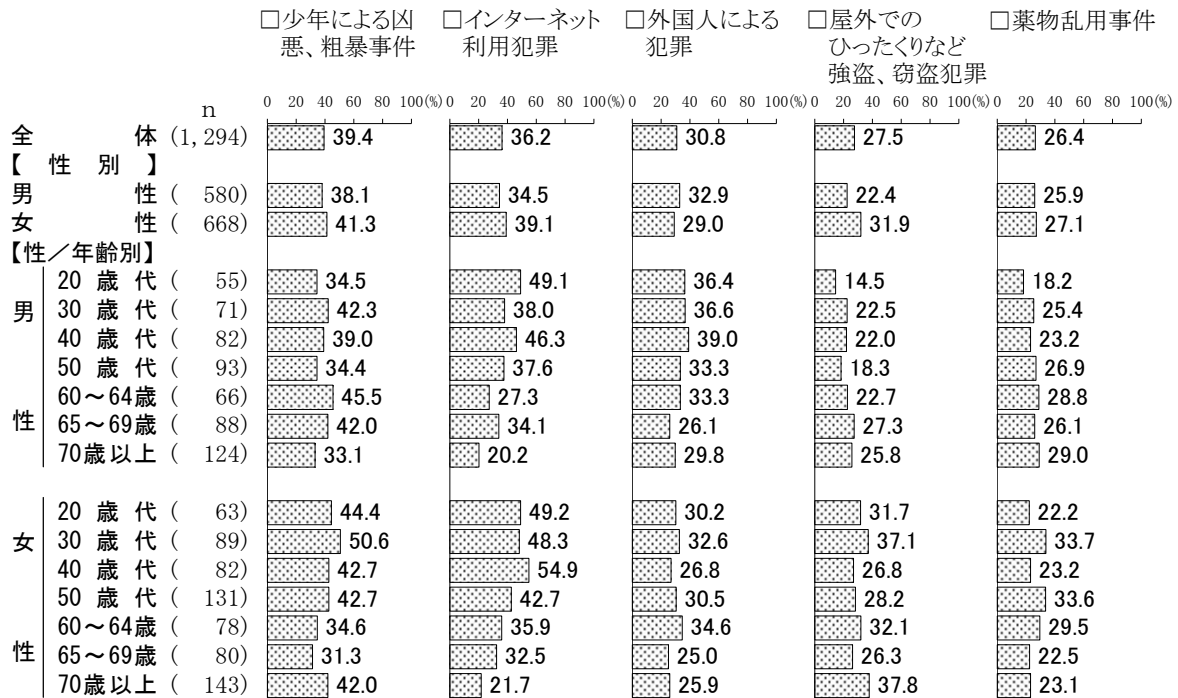
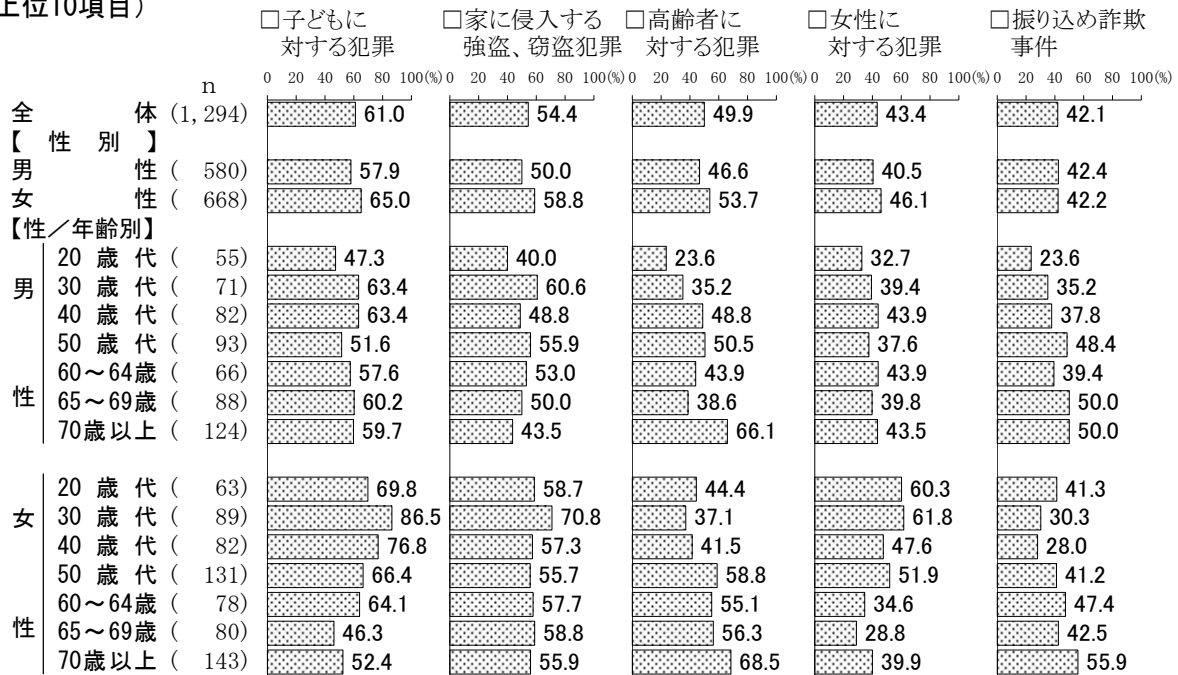


全体で見ると、「子どもに対する犯罪」(61.0%)が6割を超えて最も高く、次いで「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(54.4%)、「高齢者に対する犯罪」(49.9%)、「女性に対する犯罪」(43.4%)、「振り込め詐欺事件」(42.1%)、「少年による凶悪、粗暴事件」(39.4%)の順となっている。

前回(平成24年)の調査結果と比較すると、「振り込め詐欺事件」が6.2ポイント、「高齢者に対する犯罪」が4.0ポイント増加している。一方、「少年による凶悪、粗暴事件」は5.4ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

(上位10項目)

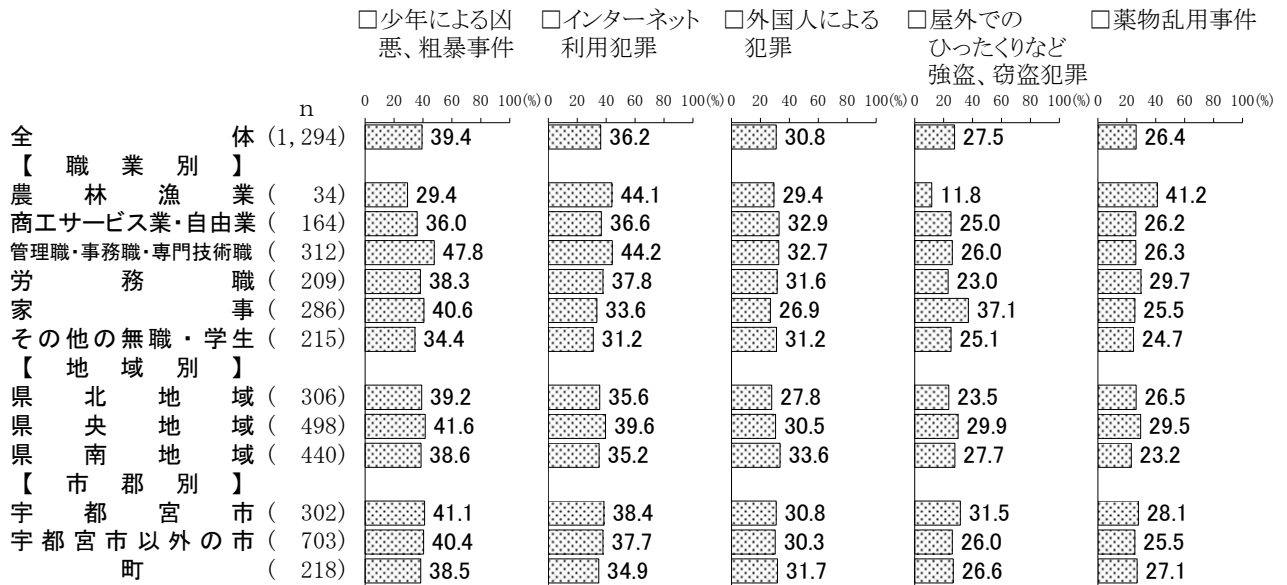
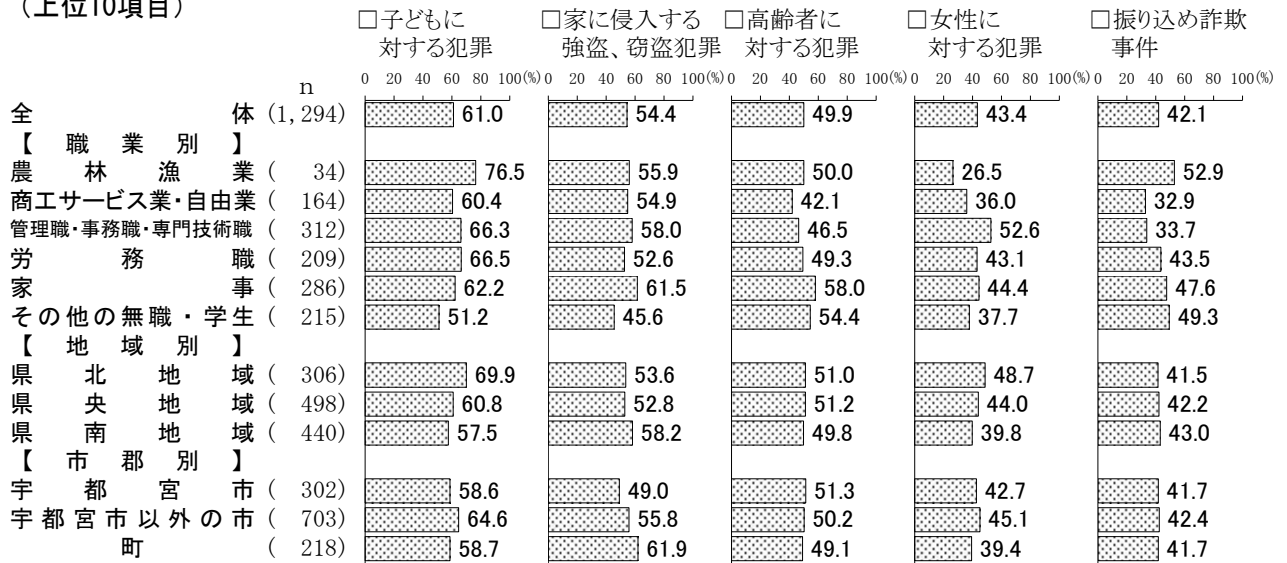


性別で見ると、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈女性〉(58.8%)が〈男性〉(50.0%)より8.8ポイント、「子どもに対する犯罪」では〈女性〉(65.0%)が〈男性〉(57.9%)より7.1ポイント、「高齢者に対する犯罪」では〈女性〉(53.7%)が〈男性〉(46.6%)より7.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「子どもに対する犯罪」では〈女性30歳代〉が86.5%、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈女性30歳代〉が70.8%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈女性70歳以上〉が68.5%、「振り込め詐欺事件」では〈女性70歳以上〉が55.9%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性30歳代〉が61.8%、〈女性20歳代〉が60.3%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]

(上位10項目)



職業別でみると、「女性に対する犯罪」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が52.6%と高くなっている。「振り込め詐欺事件」では〈農林漁業〉が52.9%と他の職業に比べて高くなっている。

地域別でみると、「子どもに対する犯罪」では〈県北地域〉が69.9%と高くなっている。

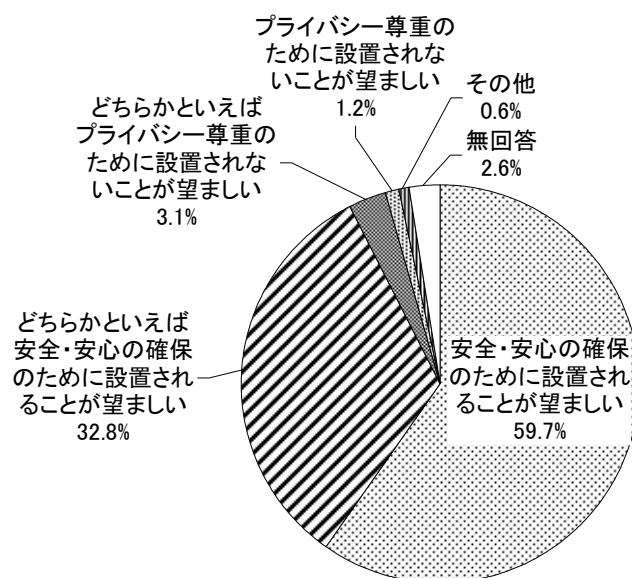
市郡別でみると、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈町〉が61.9%と高くなっている。

(3) 公共空間における防犯カメラの設置について

問39 あなたは、公共空間における防犯カメラの設置についてどのように思いますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,294]

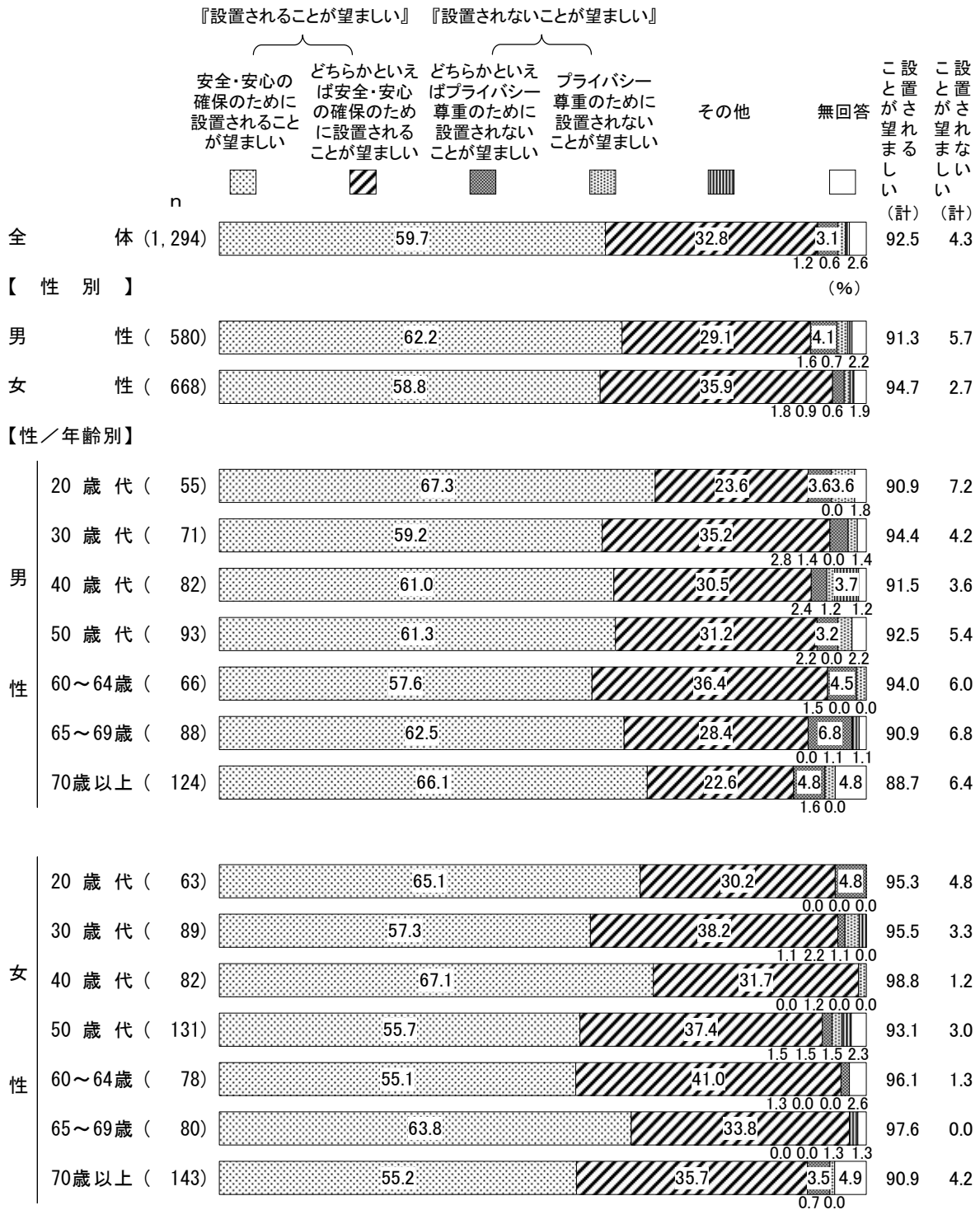
1	安全・安心の確保のために設置されることが望ましい	59.7%
2	どちらかといえば安全・安心の確保のために設置されることが望ましい	32.8
3	どちらかといえばプライバシー尊重のために設置されないことが望ましい	3.1
4	プライバシー尊重のために設置されないことが望ましい	1.2
5	その他	0.6
	(無回答)	2.6



(n=1,294)

全体でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」(59.7%)が6割、「どちらかといえば安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」(32.8%)が3割を超えており、この2つを合わせた『設置されることが望ましい』(92.5%)は9割を超えている。「どちらかといえばプライバシー尊重のために設置されないことが望ましい」(3.1%)と「プライバシー尊重のために設置されないことが望ましい」(1.2%)の2つを合わせた『設置されないことが望ましい』(4.3%)は1割に満たない。

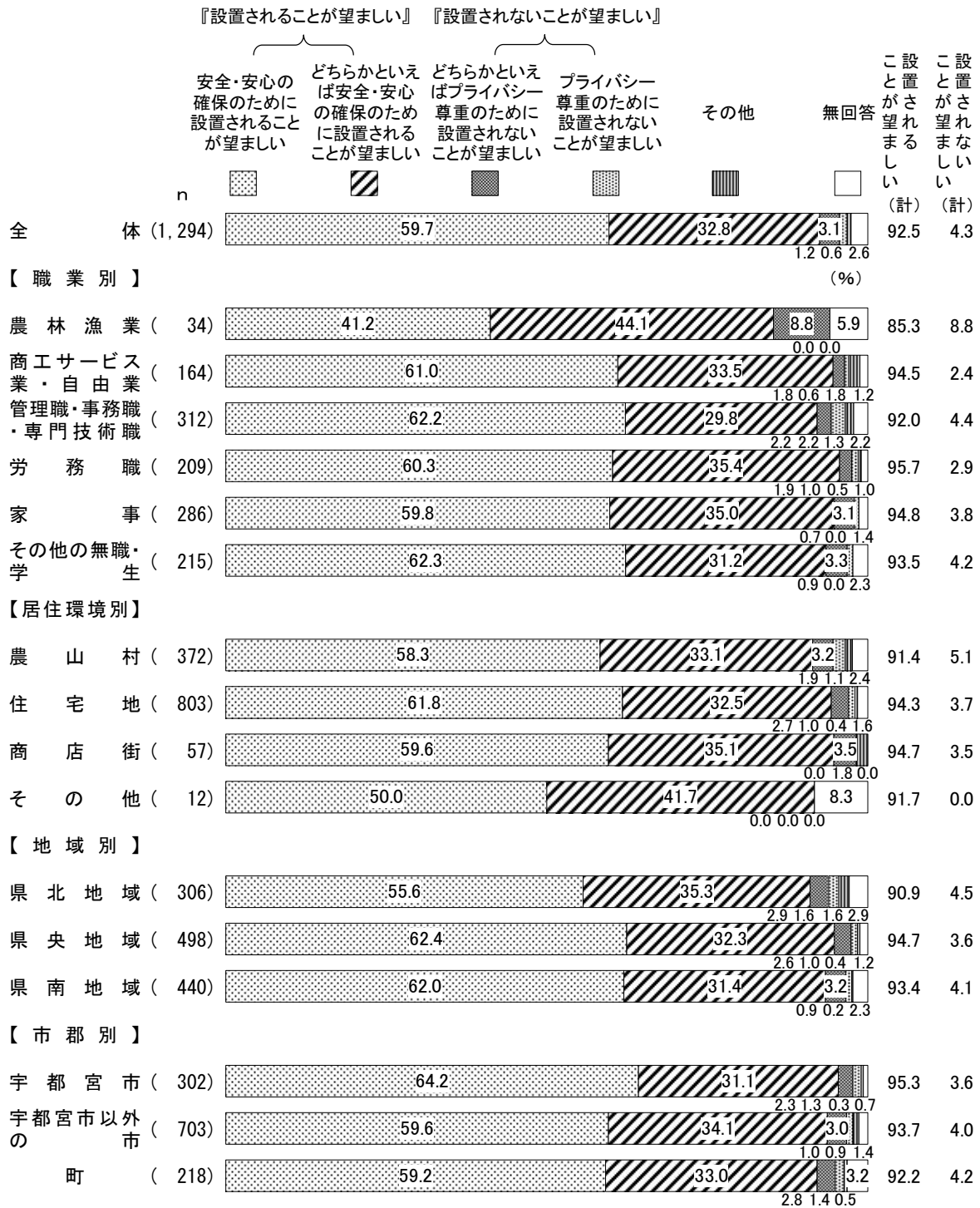
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『設置されることが望ましい』では〈女性〉(94.7%)が〈男性〉(91.3%)より3.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『設置されることが望ましい』では〈男性70歳以上〉(88.7%)以外のすべての年代で9割台と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市郡別]



職業別でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」では〈農林漁業〉(41.2%)以外のすべての職業で6割前後となっている。

居住環境別でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」では〈住宅地〉が61.8%と他の居住環境に比べて高くなっている。

地域別でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」では〈県央地域〉が62.4%、〈県南地域〉が62.0%と、〈県北地域〉に比べて高くなっている。

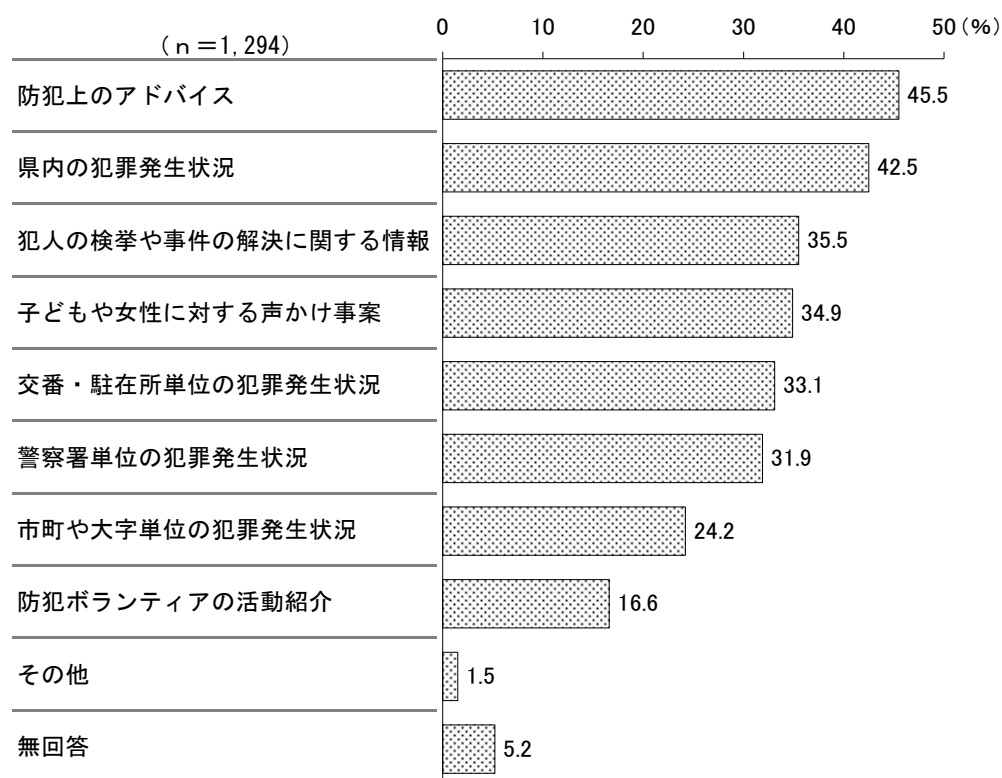
市郡別でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」では〈宇都宮市〉が64.2%と、〈宇都宮市以外の市〉や〈町〉に比べて高くなっている。

(4) 犯罪の発生や防犯に関する情報で知りたいこと

問40 犯罪の発生や防犯に関して、あなたは、警察からどのような内容の情報提供を望みますか。次の中からいくつでも選んでください。

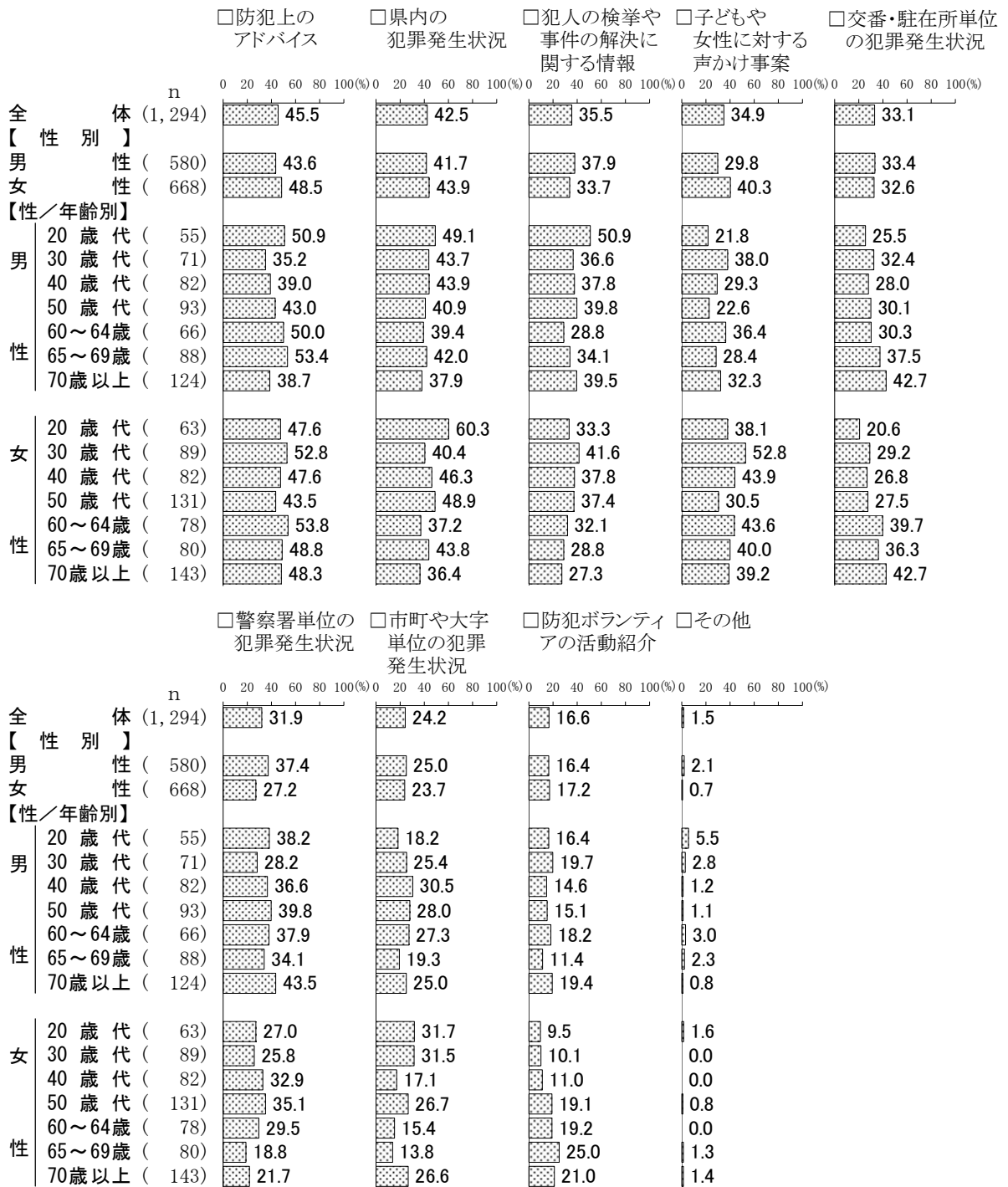
[n=1,294]

1	県内の犯罪発生状況	42.5%	6	子どもや女性に対する声かけ事案	34.9%
2	警察署単位の犯罪発生状況	31.9	7	防犯上のアドバイス	45.5
3	交番・駐在所単位の犯罪発生状況	33.1	8	防犯ボランティアの活動紹介	16.6
4	市町や大字単位の犯罪発生状況	24.2	9	その他	1.5
5	犯人の検挙や事件の解決に関する情報	35.5		(無回答)	5.2



全体で見ると、「防犯上のアドバイス」(45.5%)が4割半ばで最も高く、次いで「県内の犯罪発生状況」(42.5%)、「犯人の検挙や事件の解決に関する情報」(35.5%)、「子どもや女性に対する声かけ事案」(34.9%)、「交番・駐在所単位の犯罪発生状況」(33.1%)、「警察署単位の犯罪発生状況」(31.9%)の順となっている。

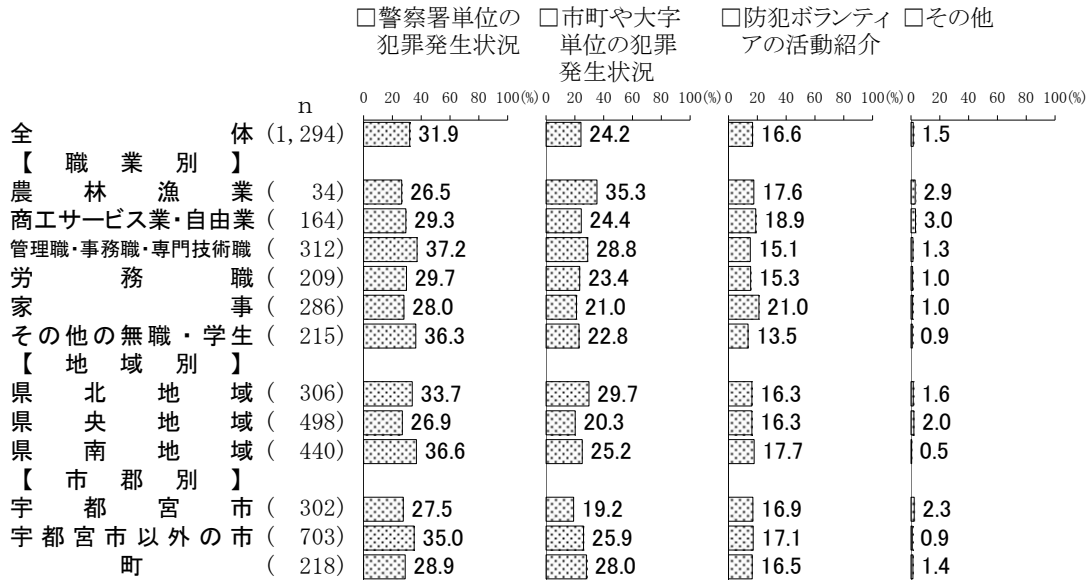
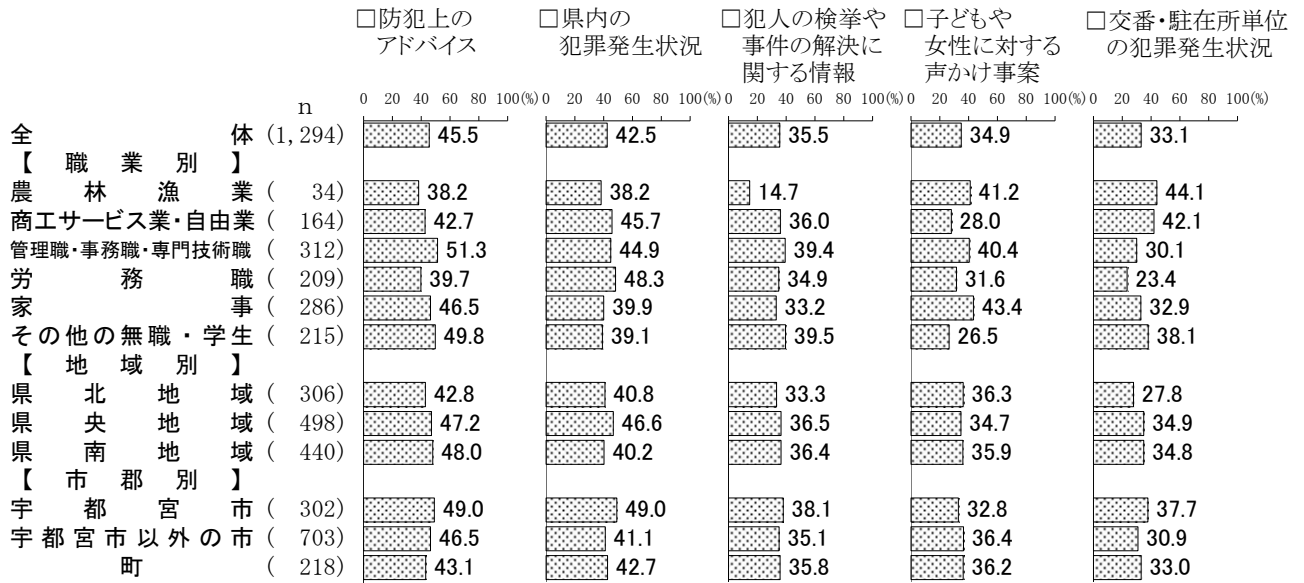
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「子どもや女性に対する声かけ事案」では〈女性〉(40.3%)が〈男性〉(29.8%)より10.5ポイント高く、「警察署単位の犯罪発生状況」では〈男性〉(37.4%)が〈女性〉(27.2%)より10.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「県内の犯罪発生状況」では〈女性20歳代〉が60.3%と高く、「子どもや女性に対する声かけ事案」では〈女性30歳代〉が52.8%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]



職業別でみると、「交番・駐在所単位の犯罪発生状況」では〈農林漁業〉が44.1%、〈商工サービス業・自由業〉が42.1%と高くなっている。

地域別でみると、「県内の犯罪発生状況」では〈県央地域〉が46.6%、「警察署単位の犯罪発生状況」では〈県南地域〉が36.6%、「市町や大字単位の犯罪発生状況」では〈県北地域〉が高くなっている。

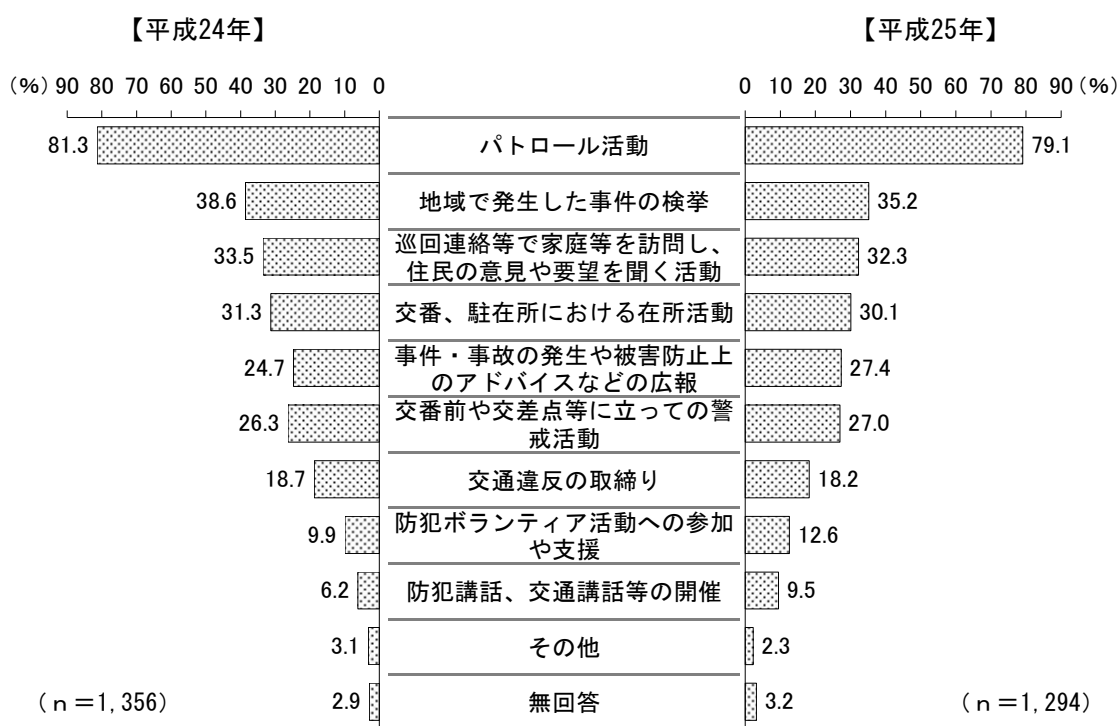
市郡別でみると、「県内の犯罪発生状況」では〈宇都宮市〉が49.0%、「警察署単位の犯罪発生状況」では〈宇都宮市以外の市〉が35.0%と高くなっている。

(5) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動

問41 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,294]

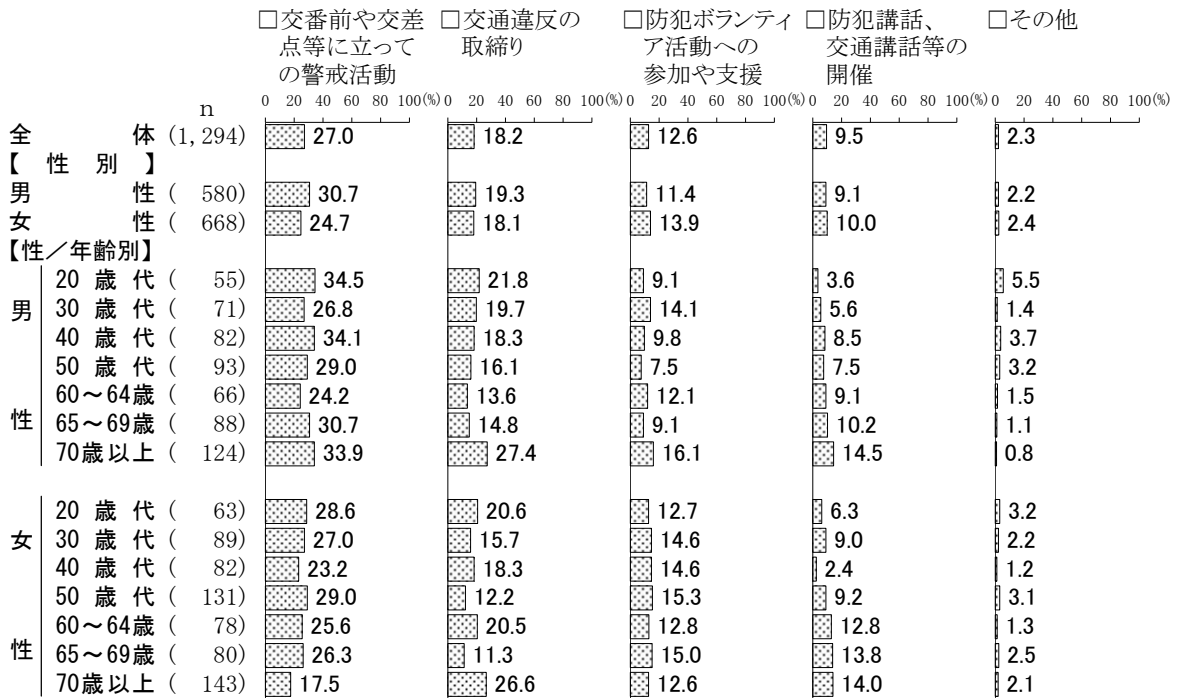
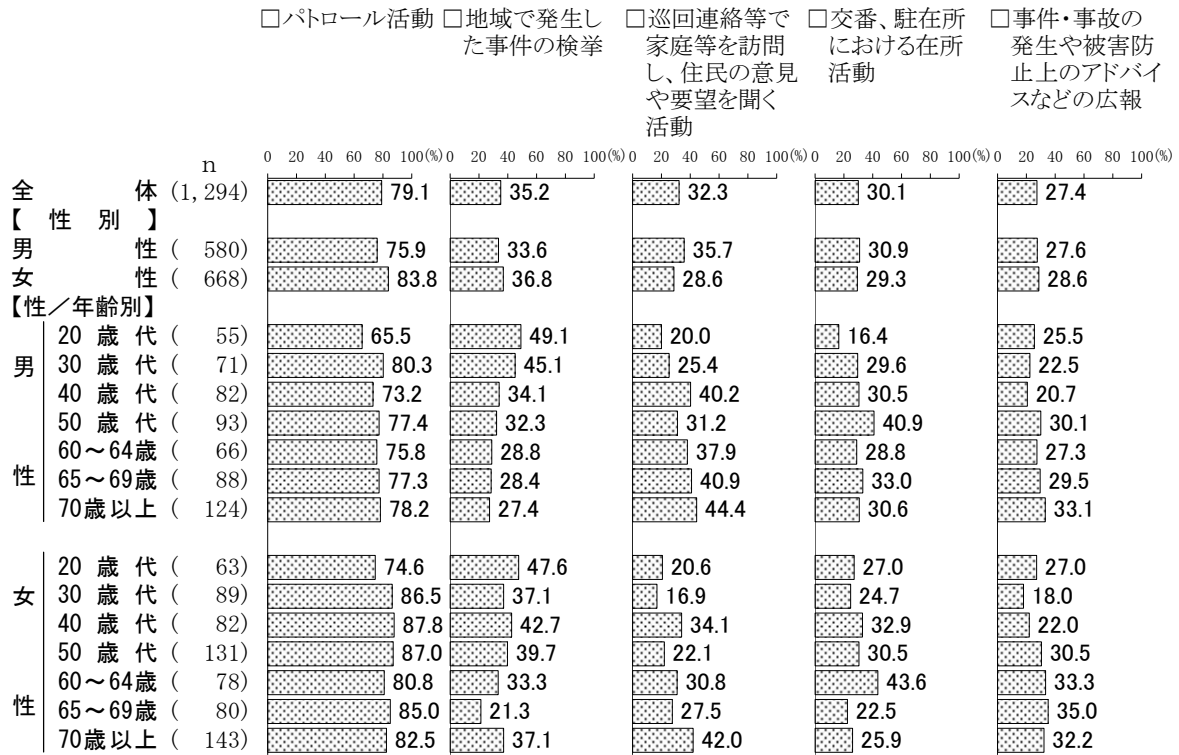
1	パトロール活動	79.1%
2	交番、駐在所における在所活動	30.1
3	巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動	32.3
4	交番前や交差点等に立っての警戒活動	27.0
5	事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報	27.4
6	地域で発生した事件の検挙	35.2
7	交通違反の取締り	18.2
8	防犯講話、交通講話等の開催	9.5
9	防犯ボランティア活動への参加や支援	12.6
10	その他	2.3
	(無回答)	3.2



全体でみると、「パトロール活動」(79.1%)がほぼ8割で最も高く、次いで「地域で発生した事件の検挙」(35.2%)、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(32.3%)、「交番、駐在所における在所活動」(30.1%)、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」(27.4%)、「交番前や交差点等に立っての警戒活動」(27.0%)の順となっている。

前回(平成24年)の調査結果と比較すると、上位4項目については同じ順位となっている。

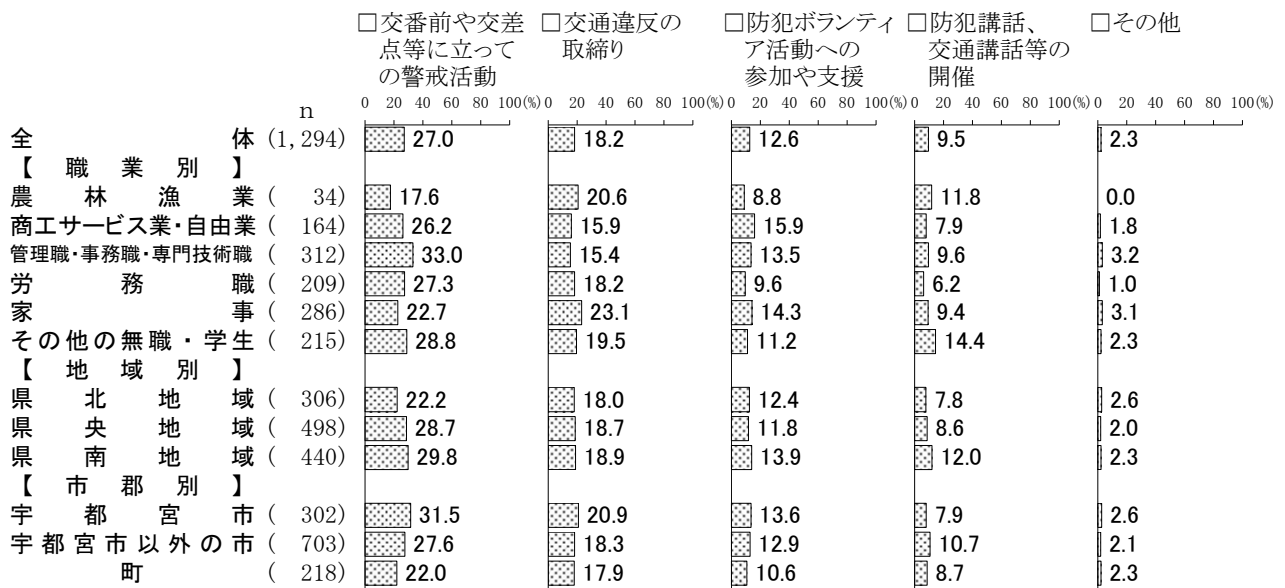
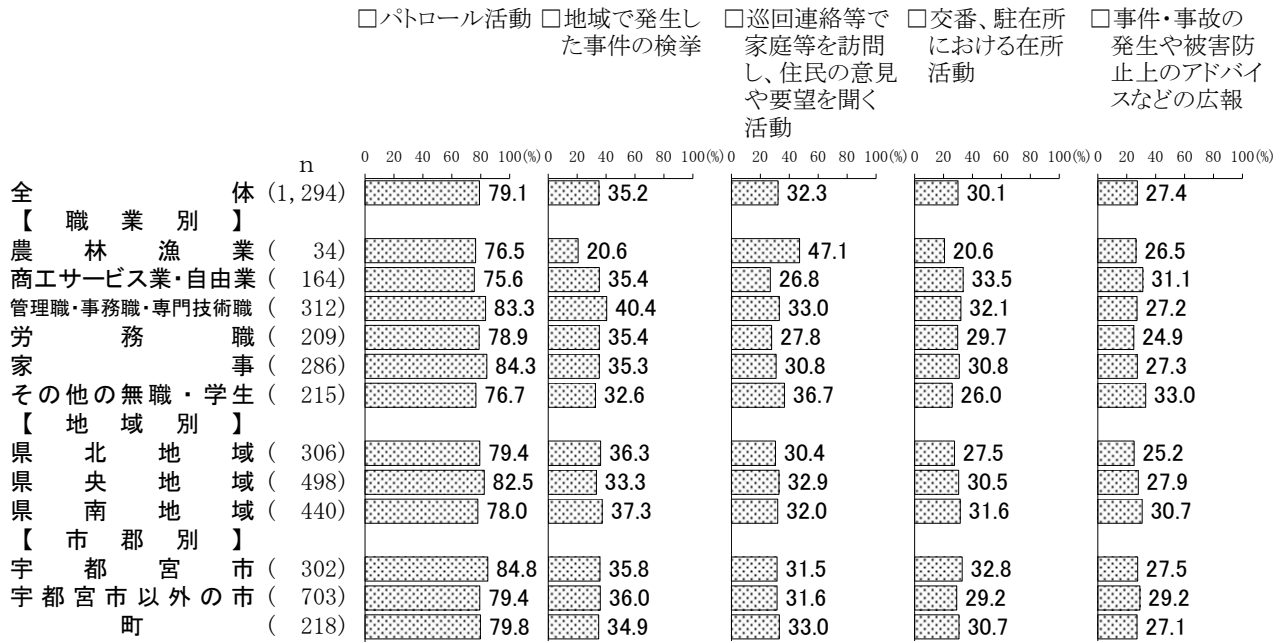
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「パトロール活動」では〈女性〉(83.8%)が〈男性〉(75.9%)より7.9ポイント高く、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性〉(35.7%)が〈女性〉(28.6%)より7.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「地域で発生した事件の検挙」では〈男性20歳代〉が49.1%、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性70歳以上〉が44.4%、「交番、駐在所における在所活動」では〈女性60~64歳〉が43.6%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]



職業別でみると、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈農林漁業〉が47.1%と他の職業に比べて高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市郡別でみると、「交番前や交差点等に立っての警戒活動」では〈宇都宮市〉が31.5%と、〈宇都宮市以外の市〉や〈町〉と比べて高くなっている。

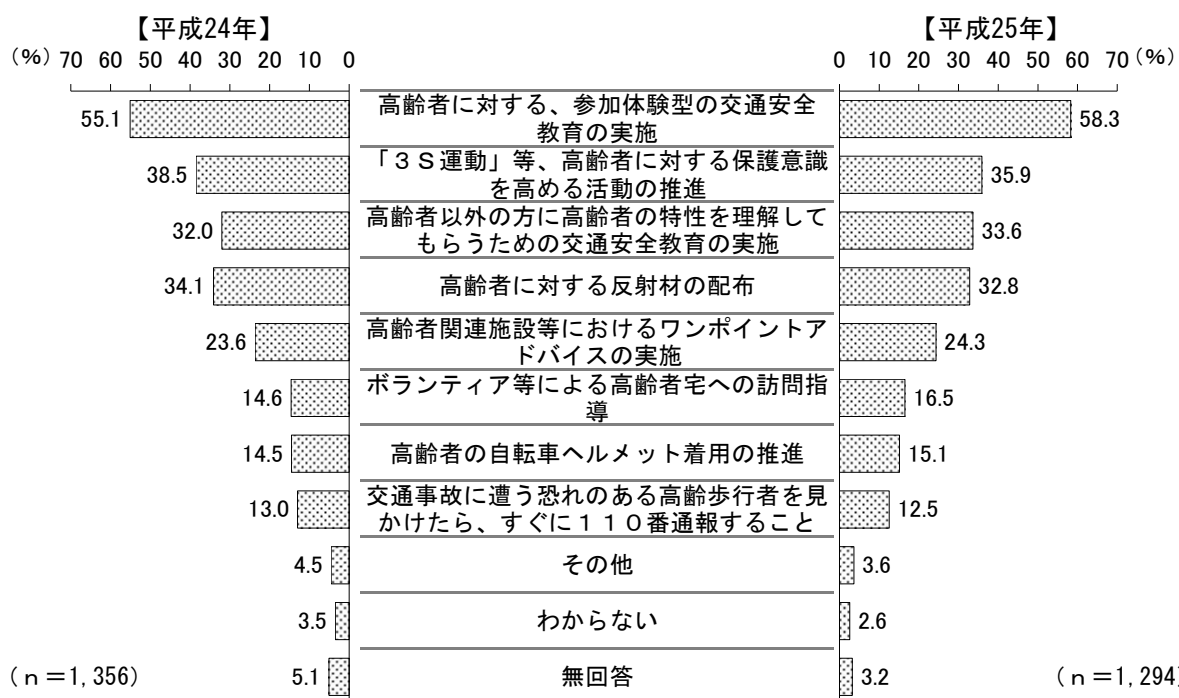
(6) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策

問42 高齢者が交通事故の当事者になる割合が増えています。高齢者の事故を防止するため、あなたは何が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,294]

1	高齢者に対する、参加体験型の交通安全教育の実施	58.3%
2	高齢者に対する反射材の配布	32.8
3	ボランティア等による高齢者宅への訪問指導	16.5
4	高齢者関連施設等におけるワンポイントアドバイスの実施	24.3
5	高齢者の自転車ヘルメット着用の推進	15.1
6	「3S運動」(※)等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進	35.9
7	高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施	33.6
8	交通事故に遭う恐れのある高齢歩行者を見かけたら、すぐに110番通報すること	12.5
9	その他	3.6
10	わからない	2.6
	(無回答)	3.2

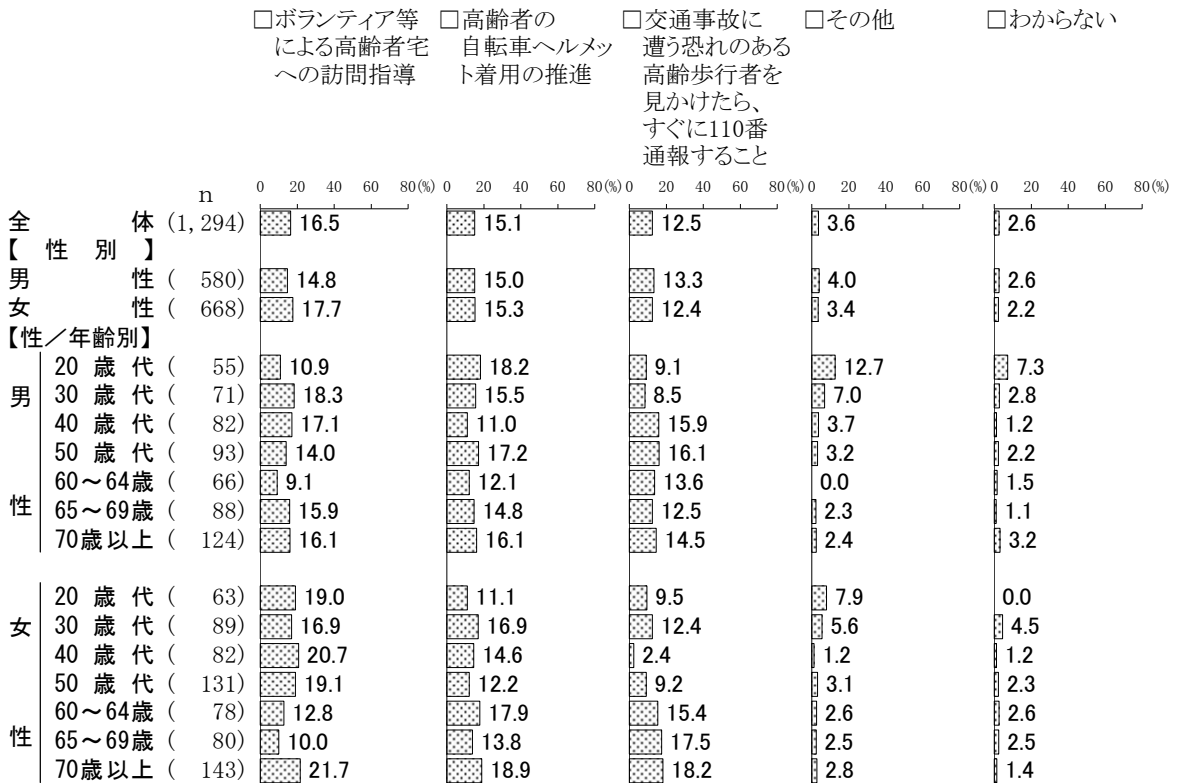
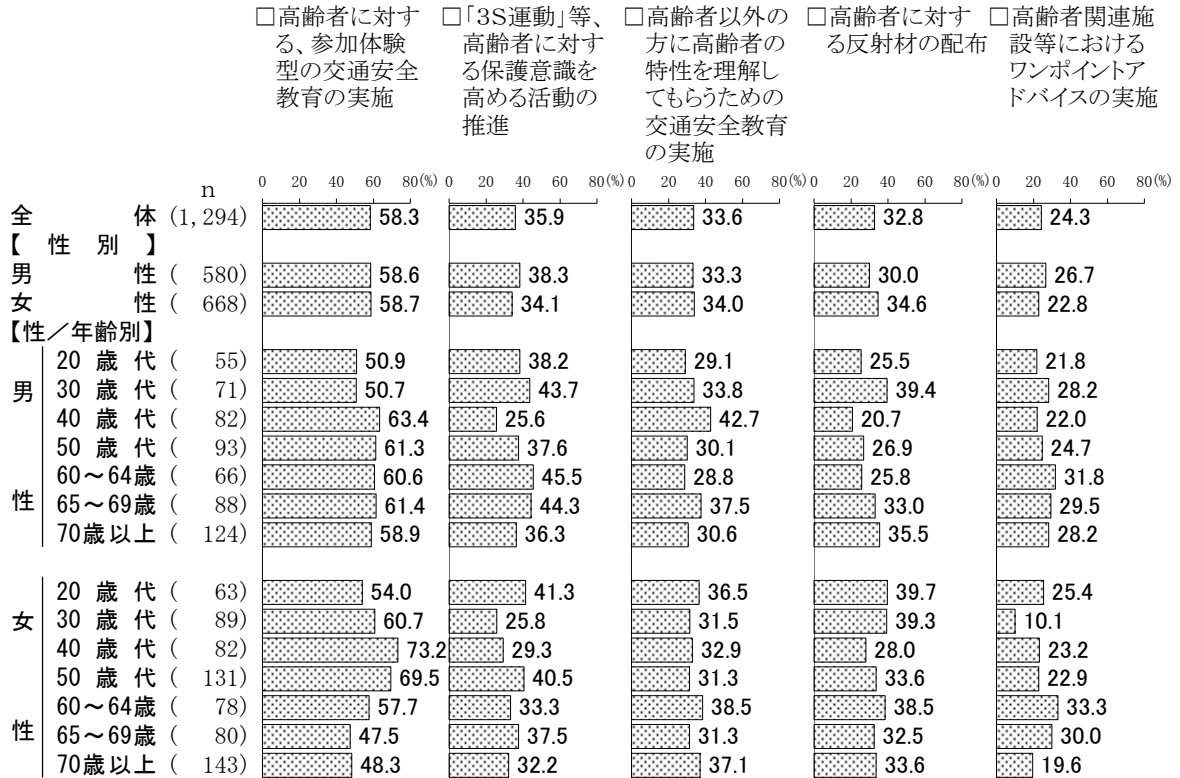
※3S(スリーエス)とは、SEE(見る)、SLOW(減速する)、STOP(止まる)の頭文字をとったものです。



全体で見ると、「高齢者に対する、参加体験型の交通安全教育の実施」(58.3%)が6割近くで最も高く、次いで「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」(35.9%)、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」(33.6%)、「高齢者に対する反射材の配布」(32.8%)の順となっている。

前回(平成24年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

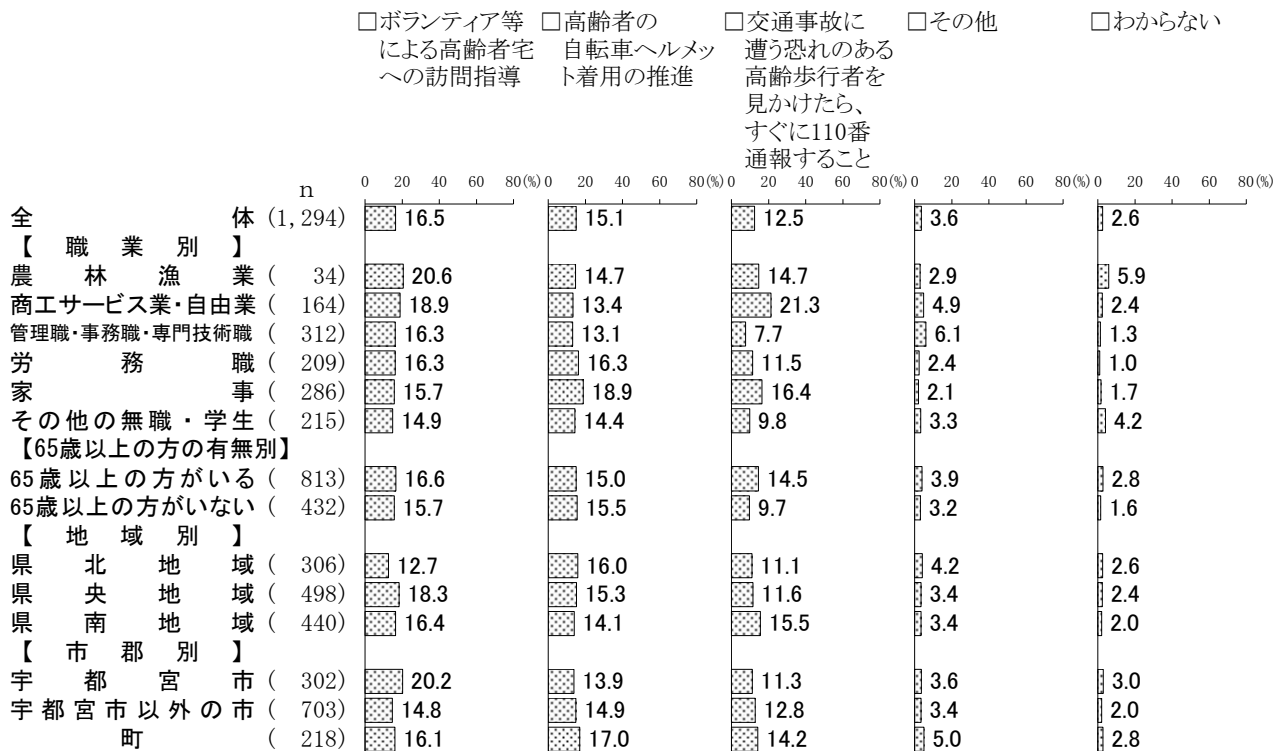
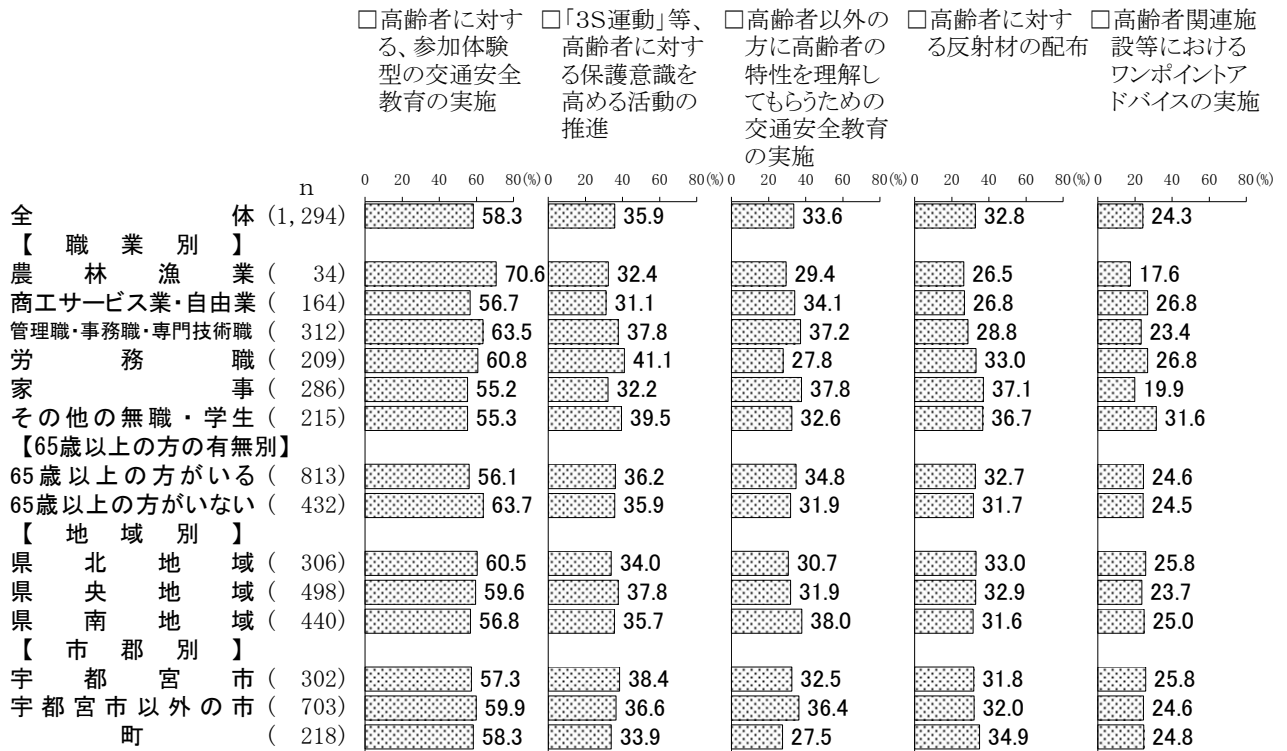
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」では〈男性〉(38.3%)が〈女性〉(34.1%)より4.2ポイント高く、「高齢者に対する反射材の配布」では〈女性〉(34.6%)が〈男性〉(30.0%)より4.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「高齢者に対する、参加体験型の交通安全教育の実施」では〈女性40歳代〉が73.2%と高くなっている。

【職業別・65歳以上の方の有無別・地域別・市郡別】



職業別で見ると、「高齢者に対する、参加体験型の交通安全教育の実施」では〈農林漁業〉が70.6%と他の職業に比べて高くなっている。

65歳以上の方の有無別で見ると、「高齢者に対する、参加体験型の交通安全教育の実施」では〈65歳以上の方がいない〉(63.7%)が〈65歳以上の方がいる〉(56.1%)より7.6ポイント高くなっている。

地域別で見ると、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」では〈県南地域〉が38.0%と他の地域に比べて高くなっている。

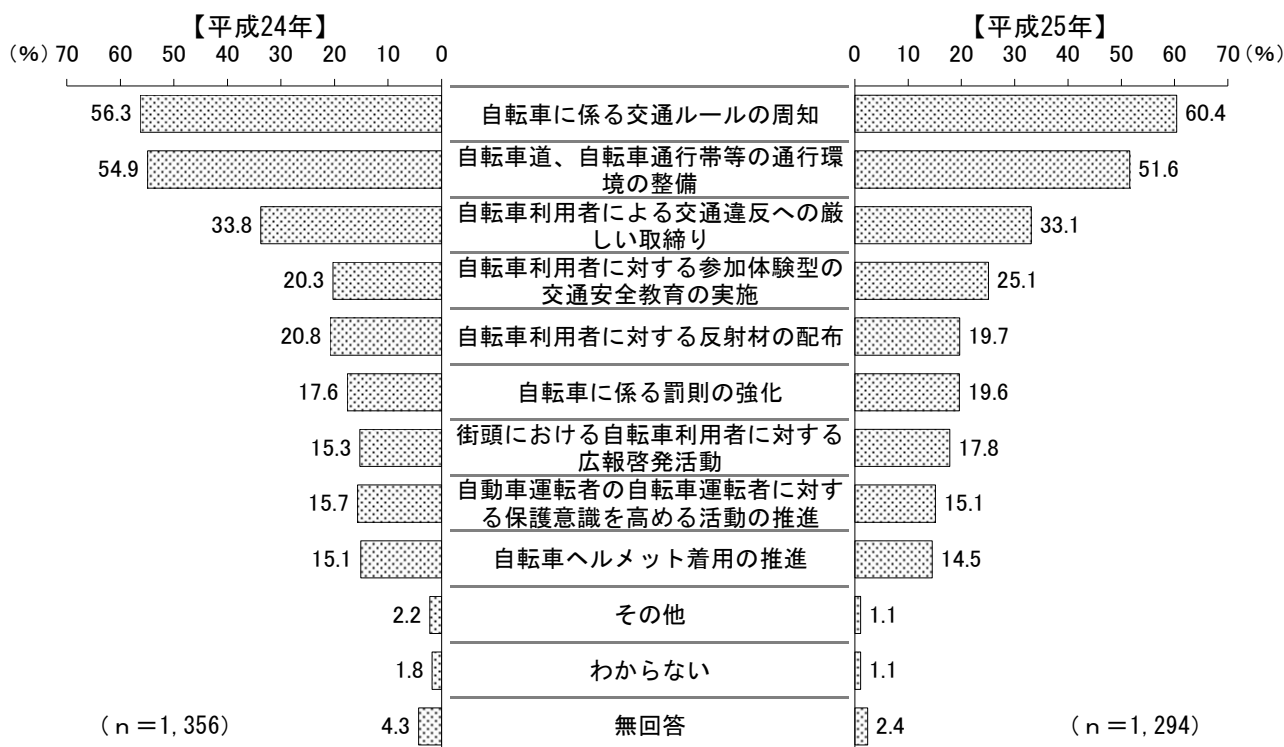
市郡別にみると、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」では〈宇都宮市以外の市〉が36.4%と、〈宇都宮市〉や〈町〉と比べて高くなっている。

(7) 自転車の安全利用を促進するために必要な対策

問43 あなたは、自転車の安全利用を促進するために何が重要だと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。

[n=1,294]

1	自転車に係る交通ルールの周知	60.4%
2	自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施	25.1
3	街頭における自転車利用者に対する広報啓発活動	17.8
4	自転車利用者に対する反射材の配布	19.7
5	自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備	51.6
6	自転車ヘルメット着用の推進	14.5
7	自転車利用者による交通違反への厳しい取締り	33.1
8	自転車に係る罰則の強化	19.6
9	自動車運転者の自転車運転者に対する保護意識を高める活動の推進	15.1
10	その他	1.1
11	わからない	1.1
	(無回答)	2.4

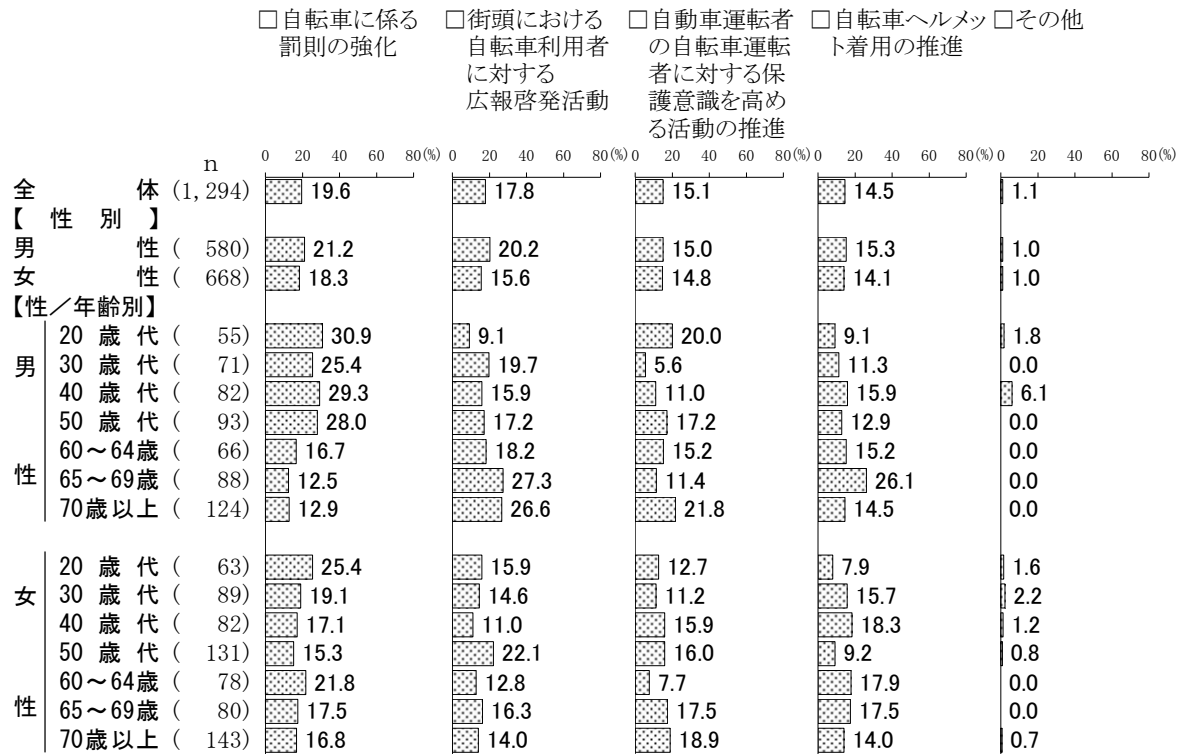
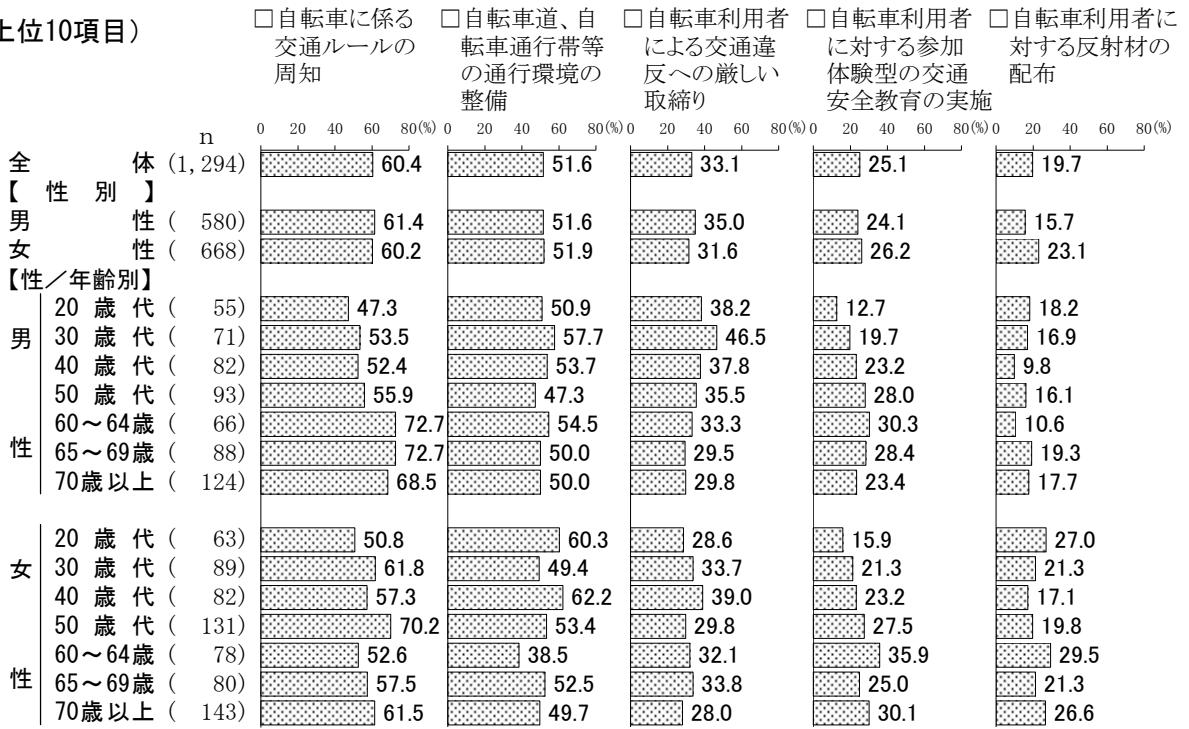


全体で見ると、「自転車に係る交通ルールの周知」(60.4%)が6割で最も高く、次いで「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」(51.6%)、「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」(33.1%)、「自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」(25.1%)の順となっている。

前回(平成24年)の調査結果と比較すると、「自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」は4.8ポイント増加し、「自転車に係る交通ルールの周知」は4.1ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]

(上位10項目)

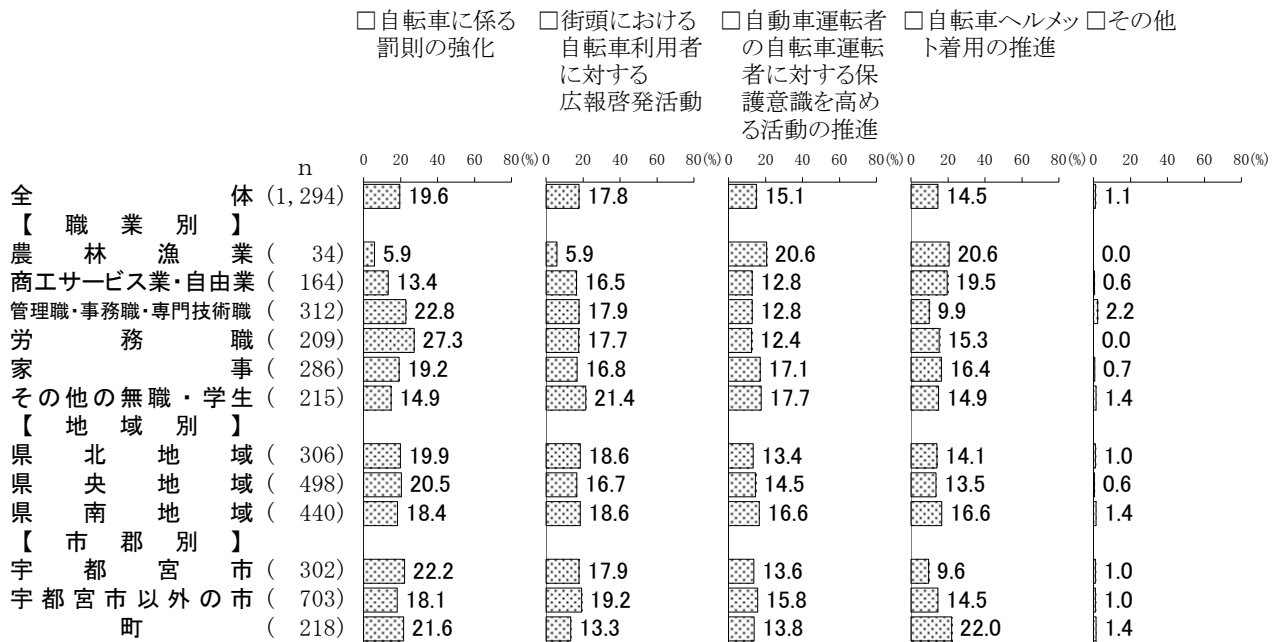
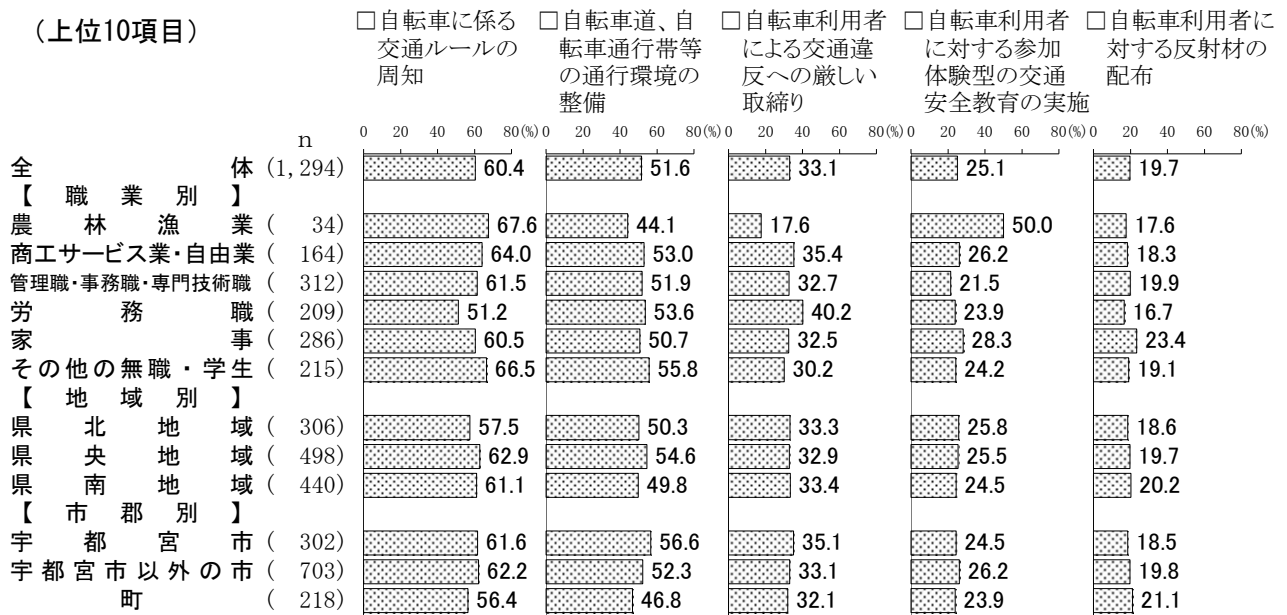


性別でみると、「自転車利用者に対する反射材の配布」では〈女性〉(23.1%)が〈男性〉(15.7%)より7.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「自転車に係る交通ルールの周知」では〈男性の60~64歳と65~69歳〉が72.7%と高くなっている。「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」では〈女性40歳代〉が62.2%、「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」では〈男性30歳代〉が46.5%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]

(上位10項目)



職業別でみると、「自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」では〈農林漁業〉が50.0%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

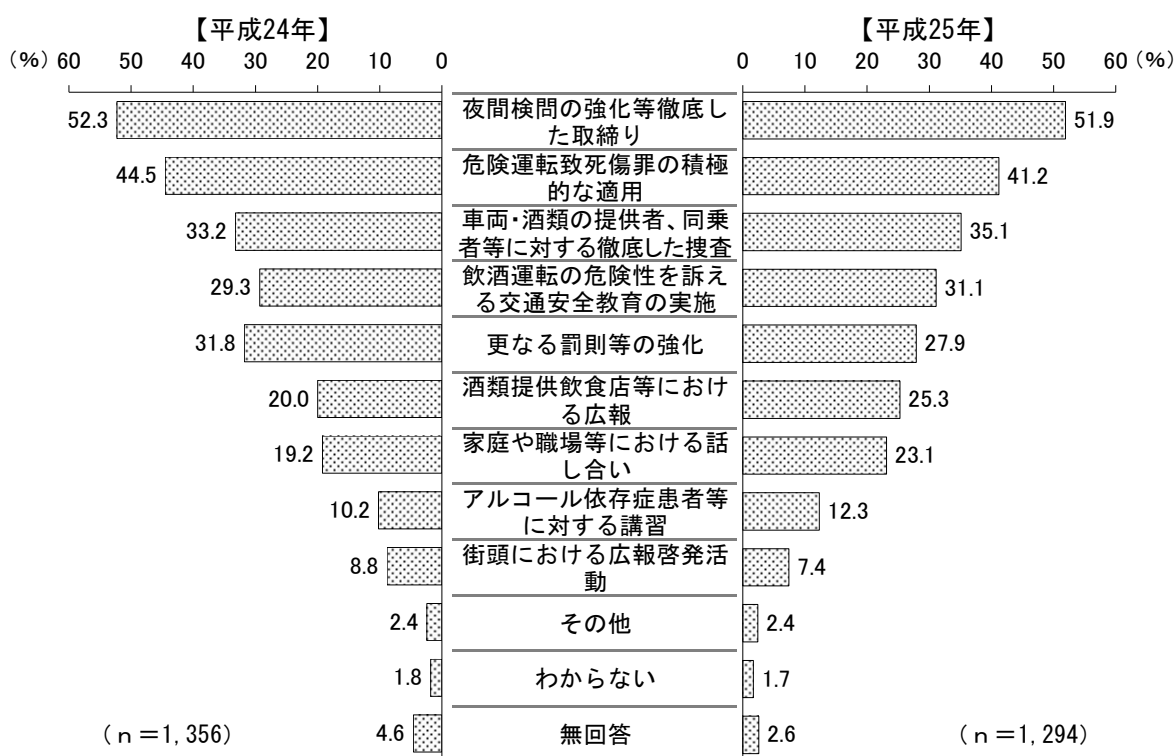
市郡別でみると、「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」では〈宇都宮市〉が56.6%、「自転車ヘルメット着用の推進」では〈町〉が22.0%と高くなっている。

(8) 飲酒運転根絶のために必要な対策

問44 飲酒運転の罰則や行政処分が強化されましたが、依然として悪質な飲酒運転は後を絶ちません。飲酒運転を根絶するため、あなたはどのような対策が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,294]

1	夜間検問の強化等徹底した取締り	51.9%
2	車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査	35.1
3	危険運転致死傷罪の積極的な適用	41.2
4	飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施	31.1
5	街頭における広報啓発活動	7.4
6	家庭や職場等における話し合い	23.1
7	酒類提供飲食店等における広報	25.3
8	アルコール依存症患者等に対する講習	12.3
9	更なる罰則等の強化	27.9
10	その他	2.4
11	わからない	1.7
	(無回答)	2.6

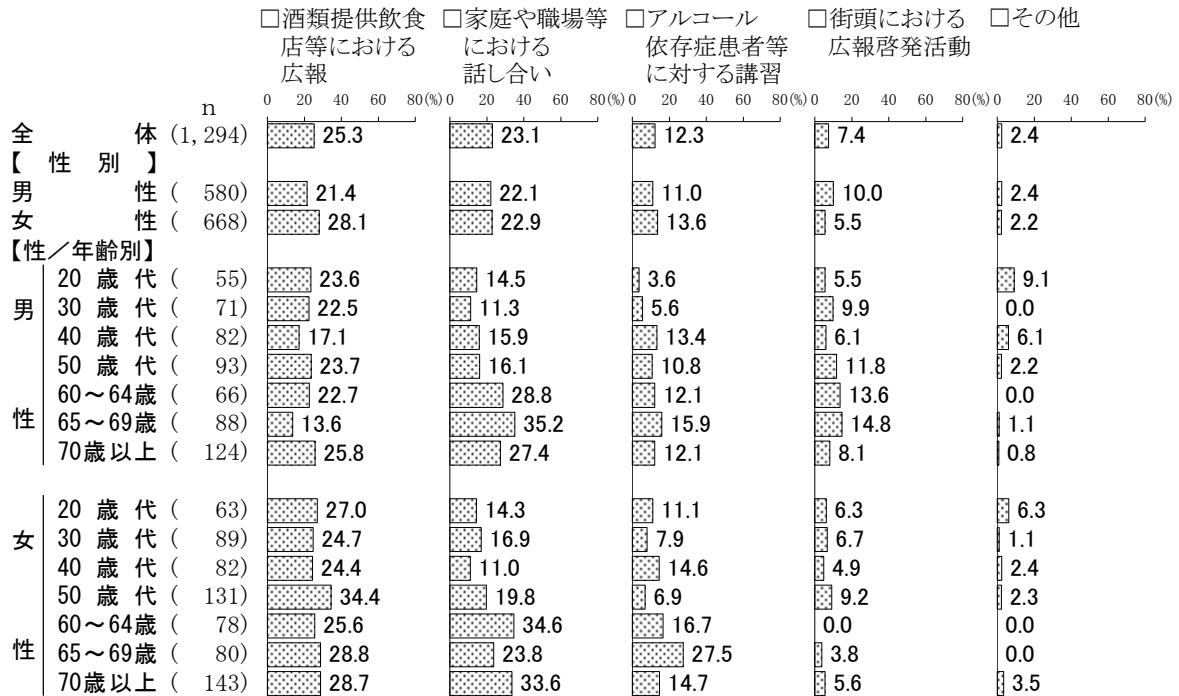
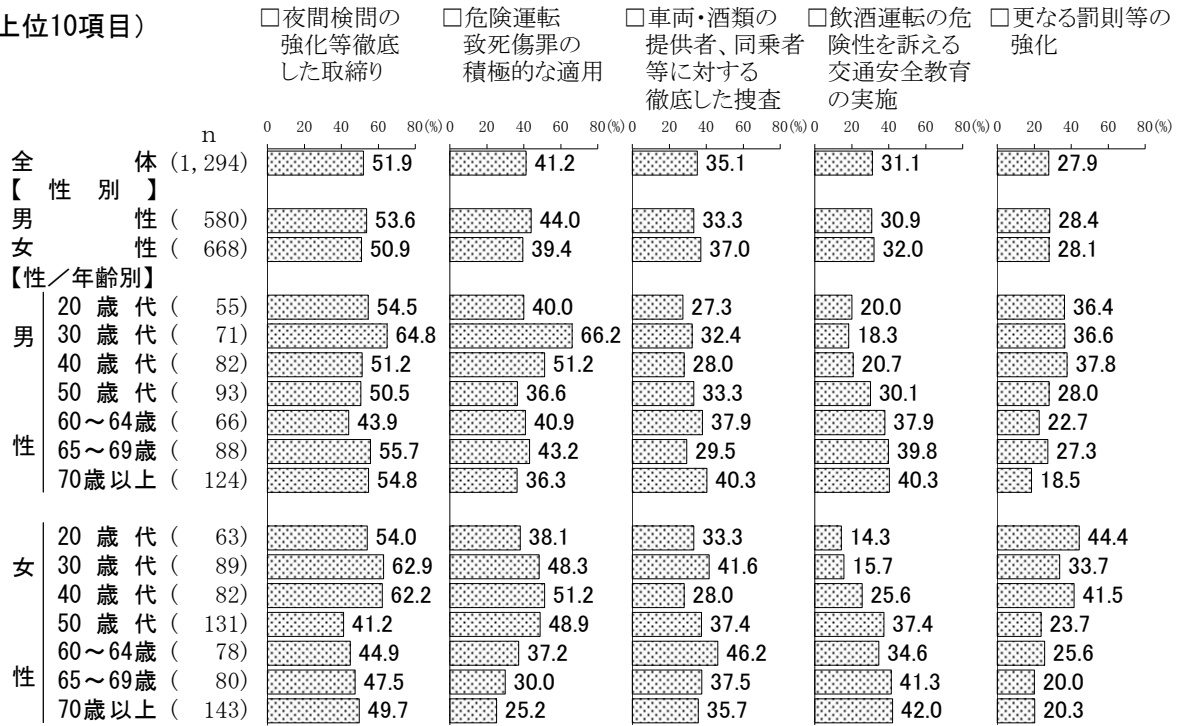


全体で見ると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」(51.9%)が5割を超えて最も高く、次いで「危険運転致死傷罪の積極的な適用」(41.2%)、「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」(35.1%)、「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」(31.1%)の順となっている。

前回(平成24年)の調査結果と比較すると、「酒類提供飲食店等における広報」は5.3ポイント、「家庭や職場等における話し合い」は3.9ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]

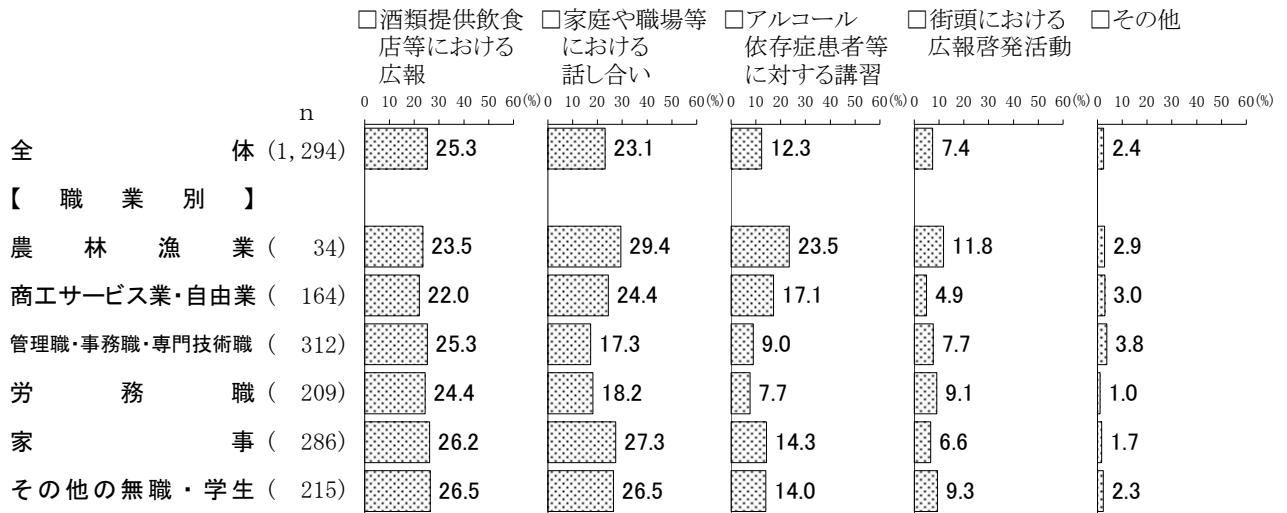
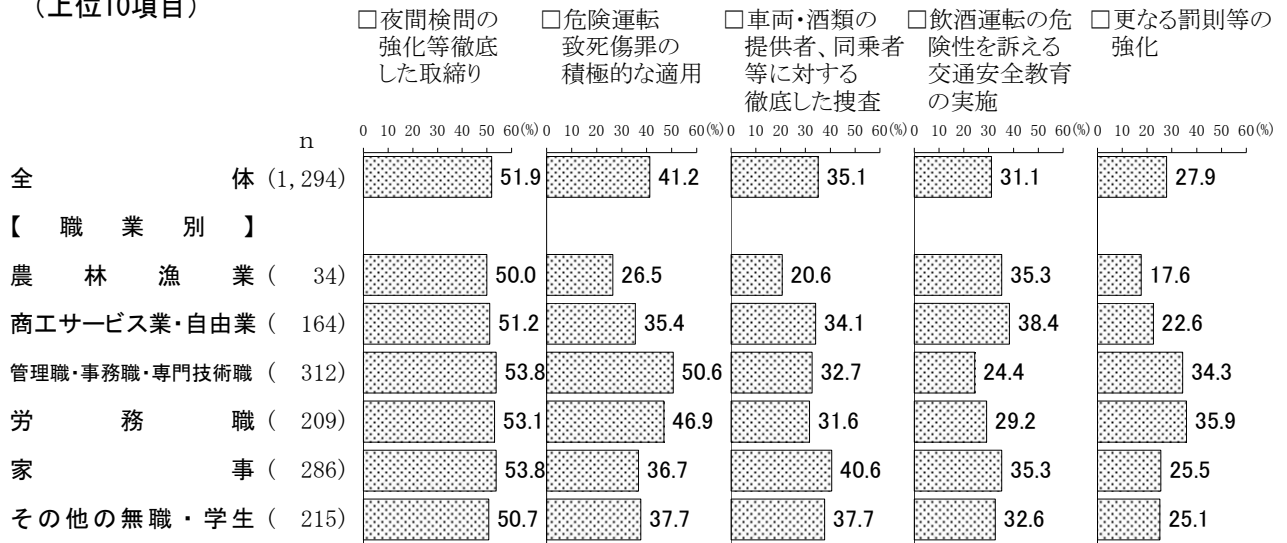
(上位10項目)



性別でみると、「酒類提供飲食店等における広報」では〈女性〉(28.1%)が〈男性〉(21.4%)より6.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」では〈男性30歳代〉が66.2%と高くなっている。「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」では〈女性70歳以上〉が42.0%、〈女性65~69歳〉が41.3%と高くなっている。「更なる罰則等の強化」では〈女性20歳代〉が44.4%と高くなっている。「家庭や職場等における話し合い」では〈男性65~69歳〉が35.2%、〈女性60~64歳〉が34.6%と高くなっている。

[職業別]
(上位10項目)



職業別でみると、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が50.6%、「アルコール依存症患者等に対する講習」では〈農林漁業〉が23.5%と高くなっている。